

避難所となった学校施設の災害時におけるICT環境の活用

概要

災害時における避難所等としての役割を果たしている多くの学校施設において、平時に授業で使うICT環境を災害時には緊急避難的対応の代替方策として、設定変更等の必要な作業があるものの、安否確認をはじめとした情報収集等に活用することが可能。活用方法の例は以下のとおり。

- 児童の調べ学習用のインターネット環境を、情報収集の手段として活用。
- 教室内のTVや電子黒板を、体育館等の避難所に移動し、電子情報ボードとして活用。
- 校内の情報端末を地方自治体の事務作業に活用。

東日本大震災での活用事例(福島県新地町の例)

○同町は、「学校ICT環境整備事業(平成21年度補正予算文科省事業)」にて地デジチューナー内蔵の電子黒板を平成21年度に整備し、「地域雇用創造ICT絆プロジェクト教育情報化事業(平成22年度予備費総務省事業)」にて教育情報化事業を実施。

○3月11日の東日本大震災で、町全体が地震と津波で大きな被害を受け、同町の福田小学校と新地小学校の体育館等が避難所として使用された。福田小学校では体育館に、教室から地デジチューナー内蔵の電子黒板が運ばれ、ICT絆プロジェクトで小学校に配置されていたICT支援員が、学校と協力して体育館への設置に尽力。震災3日後から、体育館で過ごす避難されている方々への情報入手手段として活用された。また、同じく避難所となった新地小学校でも、ランチルームに設置される等、学校に整備されたICT機器が災害時に活用された。なお、新地町によると、ICT支援員は、絆プロジェクトで配備されたタブレットPCをデモンストレーションして、被災児童等を和ませる等の働きもした、との由。



ICT支援員と学校が協力して教室の電子黒板を避難所である福田小学校体育館にテレビとして設置。震災3日目から機能(9:00~21:00)し、情報入手手段として活用された。



新地小学校のランチルームにも設置され活用された。

ICT環境を活用した防災対策

概要

ネットとの常時接続という特長を活かし、日常の授業で用いるICT環境を活用することによって、リアルタイムに災害情報を収集し、学校(教室)における防災対策に有効活用できる。

フューチャースクール推進事業の実証校での活用事例(徳島県東みよし町立足代小の例)

- 電子黒板が常時PC接続されていることを活用し、ネットによる緊急地震速報受信ソフトを常駐させ、ネット配信の緊急地震速報を受信している。緊急地震速報が発信されたら、電子黒板に表示される。
- 同校では、フューチャースクール推進事業の環境として構築されている全ての教室の電子黒板に、同ソフトをインストールし、時間を決めて受信画面をポップアップできる機能を活用し、避難訓練を実施。
- なお、同ソフトは、気象庁の高度利用者向け緊急地震速報を受信して、マグニチュード、予測震度、到達までの猶予秒数を計算するもので、ネット上で無料版が配布されているとの由。

